

環境委員会資料

令和2年8月27日

所管事務の報告

- 1 令和元年東日本台風による排水樋管周辺地域における浸水に関する検証結果の住民説明会の実施結果について

上下水道局

令和元年東日本台風による排水樋管周辺地域における浸水に関する検証結果の住民説明会の実施結果について

1 これまでの経緯について

令和元年12月27日から、検証委員会を計4回開催し、浸水原因等の検証と次の雨季までの短期対策及び中長期的な対策の方向性について検討を行い、令和2年4月21日に検証結果の公表を行った。本来であれば、結果の公表後速やかに住民説明会を実施すべきであったが、新型コロナウイルスの感染が拡大している状況を踏まえて、住民説明会の実施は当面見合わせ、浸水被害があった各町内会等への説明を行い、その結果について令和2年5月27日に環境委員会に報告を行った。

その後、新型コロナウイルスに関する緊急事態宣言が解除され、また、屋内イベントの開催基準も緩和されたことから、新型コロナウイルス感染拡大予防対策を講じた上で住民説明会を開催することとした。

2 住民説明会の概要について

住民説明会では、令和2年4月9日の環境委員会報告で使用した「令和元年東日本台風による排水樋管周辺地域の浸水に関する検証について」（参考資料1）を用いて検証委員会による検証結果について説明した後、令和2年7月9日の環境委員会報告で使用した「排水樋管周辺地域における浸水に関する短期対策の取組について」（参考資料2）を用いて短期対策の進捗状況について説明を行った。

住民説明会の進行は、19時30分に開始した後、検証委員会による検証の結果の説明を約20分、短期対策の進捗状況の説明を約30分行った後、約30分間の質疑応答を行い、21時に終了した。

3 日程及び参加人数について

日時	会場	対象樋管	参加人数
7月13日（月）19時30分	上丸子小学校体育館	山王	54
7月14日（火）19時30分	上丸子小学校体育館	山王	25
7月15日（水）19時30分	小杉小学校体育館	山王	33
7月16日（木）19時30分	東高津小学校体育館	諏訪	51
7月20日（月）19時30分	宮内小学校体育館	宮内	36
7月21日（火）19時30分	宮内小学校体育館	宮内	26

7月22日(水) 19時30分	東高津小学校体育館	諏訪	61
7月27日(月) 19時30分	東高津小学校体育館	諏訪	19
7月28日(火) 19時30分	東高津小学校体育館	二子	24
7月29日(水) 19時30分	久地小学校体育館	宇奈根	35
7月30日(木) 19時30分	久地小学校体育館	宇奈根	10
8月3日(月) 19時30分	上丸子小学校体育館	山王	17
8月4日(火) 19時30分	下沼部小学校体育館	山王	33
合計			424

4 新型コロナウイルス感染拡大予防対策について

人数の制限	1会場当り100名を上限とした。
時間の制限	1回あたり1時間30分とした。
離隔の確保	参加者の座席の前後左右に1メートルの離隔を設けた。
人数及び時間の制限の補完	検証結果の動画の公開、フォームメール等による意見の受付
その他	アルコール消毒液の設置、非接触型体温計での検温など

5 住民説明会の会場での御意見について

別紙1参照

6 住民説明会の会場以外での御意見について

別紙2参照

住民説明会の会場での御意見

No.	内容	意見数（件）
1	当日の活動・被害状況について	6
2	浸水シミュレーションによる検証について	7
3	排水樋管ゲートの改良について	15
4	ゲート操作手順の見直しについて	8
5	組織・活動体制の見直しについて	2
6	排水ポンプ車と運用マニュアルについて	18
7	短期対策による効果について	8
8	訓練の実施について	4
9	住民への情報提供について	3
10	中長期対策について	8
11	本市の責任・補償について	9
12	多摩川について	7
13	その他	14
	合計	109

住民説明会の会場での主な御意見と回答

1 当日の活動・被害状況について

No.	御意見	回答
1	早くゲートを閉めていれば浸水被害は少なくなさず。操作要領では、ゲートは逆流防止を目的とすると記載している。これは逆流を未然に防ぐという意味であるのに、今回、逆流の可能性があったにもかかわらず、操作要領に違反してゲートを閉じる判断をしなかったということではないのか。	ゲート自体は逆流防止を目的としていますが、ゲートを閉じると降った雨の排水先がなくなるという問題があります。内水排除を考慮して、降雨があるとき又はそのおそれがあるときはゲートを開けるという運用をしてきました。

2 浸水シミュレーションによる検証について

No.	御意見	回答
1	シミュレーションの基準が示されていない。ゲートの開閉にかかわらず、浸水の範囲は変わらないということを結論付けるためのシミュレーションになっている。	シミュレーションは、浸水原因や短期対策の効果を確認するために行ったものであり、基本的条件については検証報告書の中に示されております。排水区モデルの再現性については、学識経験者である第三者にも確認しており、問題があるとは考えておりません。
2	ゲートを開けた時と閉めた時で被害の状況がほとんど変わってない。我々、素人が考えると、逆流と雨水と両方重なった方が被害は当然大きくなるので、閉めた方が当然被害は少なくなると思うのが普通だが、これはどういうことなのか。	御指摘いただいたゲートを開けた時と閉めた時の被害の状況につきましては、当日の降雨、河川水位の状況において、ゲートの開を維持し続けた実際の場合と、操作手順においてゲートの開閉を判断すべき時点でゲートを閉めたと仮定した場合のそれぞれの浸水結果をシミュレーションしたものになります。諏訪排水樋管周辺地域は分流地区なので、ゲートを閉めることによって雨の行き場がなくなってしまうことから、今回こういう結果になっております。

3 排水樋管ゲートの改良について

No.	御意見	回答
1	ゲートを電動化するというが、停電になった時の対策はどうするのか。	電気は、樋管の中を通して内陸の電柱から持ってきています。停電をした時は、電気を引き込む引込柱の所にある分電盤に発電機を設置して動かすという方法が一つ。もう一つの方法としては、ポータブル式の開閉補助器具を用いて人力により動かします。遠方制御化についても、停電があってもバッテリーで30分は稼働可能。30分間に発電機に切り替えることで、継続的に電気を供給します。
2	山王排水樋管でゲートに異物が挟まって閉じなかったというが、どういう対応をしたのか。	多摩川の先から排水樋管の周りにネットをかけて、目幅を細かくして異物の混入を防ぐ対策を取っています。操作手順を見直して、観測機器で順流が確認できなければゲートを閉じることとしているので、逆流による異物の混入を防げるものと考えています。

4 ゲート操作手順の見直しについて

No.	御意見	回答
1	雨がある程度降っていて順流であるときはゲートを開けっ放しにするのか。河川水位が7メートルとか8メートルになっても、ほんのちょっとでも順流なら開けるとするならば水没する。少しでも順流ならゲートを閉じないのか。	水位が上がっていても、順流が確認できれば内水は排除できています。順流が確認できなければ閉めます。閉めた場合には排水ポンプ車により排水します。判断が難しい場合もあると思いますが、手順としては順流が確認できなければ閉めることになっています。今後の運用の中で観測機器のデータを蓄積する等して操作手順の見直しも検討してまいります。
2	雨が降っている時はゲートを開けるという従来の操作手順の誤りを認めて、今回見直しを行ったということか。	これまでの操作手順は30年以上にわたって運用してきました。ゲートを閉めると雨水の排水先がなくなるので、浸水が発生する懸念があったことからそのような運用を継続してきました。今回はこれまでになく多摩川が高水位となり、土砂の被害がありました。気候変動の影響により今後もこういったことがあり得ることから、操作手順を見直しました。

5 組織・活動体制の見直しについて

No.	御意見	回答
1	資料の14ページに要員の問題が記載されているが、半数以上が他からの応援になっている。実際に被害、災害が起こるときはここだけではなくて他の地域もすべて受けることを前提とするわけですから、他から応援を受けるということは、具体的にどこの部署のどういう人たちかということまで具体化しないと今度の台風シーズンには応援に来られない。実際はどうなっているのか。	応援の体制、人数の話ですが、協力業者にもお願いすることを考えています。中部下水道事務所だけでは足りないので、他の部署から、職員を動員して対応してまいります。具体的な人選については、3日前にこの職場から何名と決めて、その中から人選してまいります。

6 排水ポンプ車と運用マニュアルについて

No.	御意見	回答
1	排水ポンプ車の運用に当たって、交通規制を行うと、大型車が迂回することになり、住民の理解は得られないのではないかと。	迂回については大型車が来るということもあるので、住民への周知をしております。
2	ポンプの連続運転の仕様のスペックはどうなっているのか。燃料はどれくらい持つのか。燃料がなくなった場合、燃料を補給するための補給車は用意されているのか。	発電機用の燃料を250リットル、車用の軽油を100リットル積んでおり、連続して12時間運転することができます。燃料がなくなった場合、携行缶で燃料を事前に用意することを考えています。

7 短期対策による効果について

No.	御意見	回答
1	短期対策で、雨量や河川の水位がどれくらいだったら被害がほとんどなくなるとか、そういう想定があるのか。	今回、短期対策ということで、排水ポンプ車を導入しましたが、東日本台風による被害の要因はこれまでにない多摩川の水位の状況です。まずは多摩川の水位をできるだけ上げないようにしていくことが大切と考えております。当日の状況と、排水ポンプ車を使った場合の効果を比較していますが、浸水被害が大幅に減少するとはいいがたいため、できるだけ早く中期、長期対策につなげていきたいと考えています。

8 訓練の実施について

No.	御意見	回答
1	排水ポンプ車の訓練はするのか。訓練をしているところを我々に見せて欲しい。遠隔操作というが、必ず目視で確認してください。目視と遠隔の両方で確認してもらいたい。	排水ポンプ車の訓練は、図上訓練やホースを接続する訓練を実施しています。今後、町会の皆様に訓練を見てもらう機会を設けてまいります。遠隔操作は万が一の時に行います（※1）。
2	今のポンプは横に置いて稼働するもので、ホースは横に並べて設置すべきものなのに、それを縦に上げてしまうと能力が半減してしまう。ポンプを稼働した時にどういう弊害が出るのか、実際にやってみて、職員にそれを実感していただきたい。9月までに職員でポンプを実際稼働させる訓練を実施してほしい。	道路をまたいで排水の訓練を行うことは難しいですが、適切な場所を見つけて9月までにポンプで実際に排水する訓練を実施してまいります（※2）。

※1 7月31日、8月5日、8月6日に各排水樋管にてゲート操作及び排水ポンプ車運用訓練を行いました。

※2 8月11日に実施した等々力緑地の浸水対策実地訓練の中で、釣池の水位を下げるために実際に排水ポンプ車を配置し、排水作業を行っています。

9 住民への情報提供について

No.	御意見	回答
1	住民への情報提供として、ホームページでの見せ方をどう考えているのか。	観測機器で得られた情報を年内に公表するため、システムの構築を進めていますが、今年の台風シーズンには間に合わないので、まずは「メールニュースかわさき」で、「最低地盤高マイナス1メートル到達時」、「ゲート全閉時」、「溢水発生時」等のタイミングでお知らせしてまいります。

10 中長期対策について

No.	御意見	回答
1	排水ポンプ車は暫定的な対策であり、ゲートポンプを設置してほしい。ポンプ車は毎分30トン、ゲートポンプであれば毎分50トン排出できる。秋口にはゲートポンプの見解を示していただきたい。	ゲートポンプについては、用地の確保といった課題の整理や有効性の確認等をスピード感をもって行ってまいります。中長期対策の中でどのように整備効果を上げるか、年内に中長期対策の方向性を決めてまいります。
2	今回の検討で排水ポンプ車を配置して、なお床上浸水が残るのでは対策とは言えないのではないかと。排水ポンプ車で済まないのなら、どのような対策をするのか。例えば、ポンプ施設として固定施設として排水ポンプを置いて、それによって十分に容量に余裕があると言ってくれる計画をするなら別だが、そこについて再検討をお願いしたい。	暫定的なものにはなりますが、ゲートを閉める可能性があるため、排水ポンプ車を活用して対策を講じて参ります。御指摘のとおり固定した施設があったほうがよいという点についても、引き続き中長期の検討をしてまいります。

11 本市の責任・補償について

No.	御意見	回答
1	逆流したら閉めるというのは当たり前で、操作手順に誤りがあったとするならば、補償について考えているのか。	ゲートの目的は逆流防止ですが、ゲートを閉めることで、内水を排除する必要があります。これまでの運用の中では、降雨がある又は降雨のおそれがあるときはゲートを開けることとしていました。多摩川の水位がここまで上がったのは初めてで、これまで逆流は確認できていませんでした。これまでの操作手順は内水排除に重点を置いたものになっておりました。令和元年東日本台風によって逆流が生じたことが確認できましたので、操作手順を見直しました。これまでの操作手順については30年以上に渡って一定程度の機能を果たしてきており、賠償については考えておりません。

1 2 多摩川について

No.	御意見	回答
1	台風が来るとわかっているときに小河内ダムの放流はどうなるのか。放流があれば、河川水位に影響を与えるが、その対策はどうするのか。	国や東京都等の周辺自治体が連携して、「多摩川緊急治水対策プロジェクト」を取りまとめしており、河道掘削、樹木伐採、堰の改築等を行い、河川水位を低下させる取組を進めています。小河内ダムについては、水量の一部を洪水調節に供することを可能とするため、協定が締結され、ダムの事前放流も行うと聞いています。
2	多摩川緊急治水対策プロジェクトの中では中原区と高津区は対象になっていない。プロジェクトとは別に必要に応じて河道掘削をやるという話があったが、その後はっきりした回答がない。多摩川の容量を広げる努力をしないといけない。重ねて市からも川底の浚渫を行うことを求めている。重ねて市からも川底の浚渫を行うことを求めている。重ねて市からも川底の浚渫を行うことを求めている。重ねて市からも川底の浚渫を行うことを求めている。	プロジェクトについては、浚渫の区間は多摩川の下流から10キロくらいと多摩区の上流と府中市の間くらいになっています。国に確認したところ、トータルとして河川水位を下げるのに効果があるところからやっているとの話でした。住民の方から川の河床が上がっているのではないかという話もあるので、国の方へも申入れをしています。今後も国へ要望してまいります。

1 3 その他

No.	御意見	回答
1	他の神奈川県内の市では防災ラジオの有償配布とか、大分の日田市では貸出しをしてくれている。ただ、神奈川県内はほとんど防災ラジオは有償支給になっているので、その点、川崎市はなにも考えていないのか。	現在、防災ラジオの制作及び貸与は行っていませんが、防災等に係る情報発信については、各情報の種別に応じ各個人が最適なツールで取得できるよう、防災行政無線、テレビ等各メディアや防災アプリへの配信のほか、市ホームページへの掲載、かわさきFMによる放送、登録制メール、Twitterの配信といった様々な手法を用いて行っています。
2	今回、市と参加者が個別にやり取りした内容について公表してほしい。また、今回中途半端な回答で終わっているものについても完全な形で公表してほしい。	市と参加者が個別にやり取りした内容についても、説明会に参加した方々の間で共有すべきと考えるので、ホームページで公表してまいります。また、本日充分にお答えできなかったことについては、後ほど作成する議事録に補足して記載することで公表してまいります。

住民説明会の会場以外での御意見

1 意見数

No.	内容	意見数(件)
1	当日の活動・被害状況について	7
2	浸水シミュレーションによる検証について	10
3	排水樋管ゲートの改良について	12
4	ゲート操作手順の見直しについて	6
5	組織・活動体制の見直しについて	6
6	排水ポンプ車と運用マニュアルについて	25
7	短期対策による効果について	6
8	訓練の実施について	7
9	住民への情報提供について	6
10	中長期対策について	19
11	本市の責任・補償について	7
12	多摩川について	5
13	その他	48
	合計	164

2 提出方法

提出方法	通数
御質問・御意見記入用紙	30通
ファックス	7通
フォームメール、メール	22通
合計	59通

3 今後の取扱い

必要に応じて関係局区と調整の上、回答を作成しているところであり、回答がまとまり次第、御意見の提出方法に応じて、郵送、ファックス又はメールにより回答するとともに、上下水道局のウェブサイトに掲載する。